

平成 27 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立住吉川小学校 学校協議会

1 総括についての評価

住吉川小学校の児童のことを第一に考えて、学力の向上・自尊感情の育成を中心に対応できている。次期教育改革を見通した実践研究をすすめ「アクティブ・ラーニング」や「カリキュラム・マネジメント」を一歩ずつ展開している。困難を抱える児童や家庭には、従来からのケアとエンパワメントを基盤に、「チーム学校」への具体的な対応を展開している。

2 年度目標ごとの評価

年度目標【学力の向上】

「大阪市のしんだん」結果から、どの学年も無答率を減少させていることがよくわかった。学習意欲の向上・学びからの逃避の克服の傾向が見られる。思考力・判断力・表現力の育成重視から記述式の問題から逃避しないように「書く力」を日々の授業で育てていかなければならない。書くことで自分の思いを伝えることに躊躇しない児童を育ててほしい。

年度目標【道徳性・社会性の育成】

ピアサポートの取り組みが年々増加している。異学年活動で人間関係づくりを大切にしていることがよくわかる。ニコニコタイム・九九の学習サポートなどが根付いている。また、委員会や有志による「あいさつ運動」もよくできている。どの子も有志になれる雰囲気、例えば毎朝の登校指導時に低学年も有志になり、ご近所の方から「小さな校長先生が増えてきたね」などの声かけをしてもらうのも方法である。

年度目標【健康・体力の保持増進】

今年も全国体力テストでは、市の平均を大きく上回り、全国を超える種目もある。本校の児童にとって自尊感情を高め、大きな自信につながることができている。健康面では、昼夜逆転による不登校・朝食抜き・ハンカチ等の不保持など基本的な生活習慣にかかわる全市的な課題である。家庭を支えながらつながりをつくっていく丁寧な取り組みが必要である。

年度目標【多様な体験学習の充実】

市の諸制度をうまく活用し、本校児童にとって的確な体験学習を実施している。PDCA によるカリキュラム・マネジメントをさらに充実させ、アクティブ・ラーニングができる体験学習・問題解決学習を進めてほしい。

3 今後の学校運営についての意見

困難を抱える児童・家庭が増加している。本校のケアとエンパワメントで児童一人一人に自尊感情を育成する必要がある。国レベルの諸調査、大阪市のしんだん等で得られた児童のがんばりを「見える化」し、自信ややる気の更なる向上をめざすがある。多様な体験直後の「達成感」や「満足度」などを聞き取るアンケートや省察(リフレクション)で、協働的に学ぶことができる児童を育ててほしい。